朝小・サピックス 共同企画

地球環境を考える

ecoのとびら

～キョクさんと学ぶ世界の生き物事情～

シニア版

■企画・編集
SAPIX環境教育センター
www.sapientica.com/eco/
SAPIX YOZEMI GROUP

場所 オーストラリア

キョクさん
ぼくは、長距離を旅するキョクアジサシさ

オーストラリアのグレートバリアリーフは、2300キロメートル続く世界最大のサンゴしょう地帯。サンゴが作り上げた広大な景色は、宇宙からも見ることができるほどです。

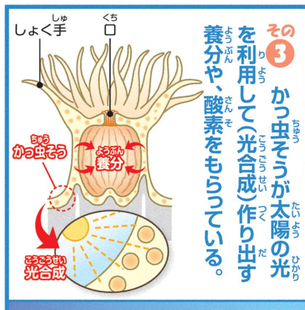
世界遺産にも登録されているグレートバリアリーフの有名な生き物といえば、サンゴ

サンゴは、見た目は木の枝や岩のように見えるけれど、イソギンチャクやクラゲと同じ仲間の動物だよ

ぼくたちは仲間

サンゴの特ちょう

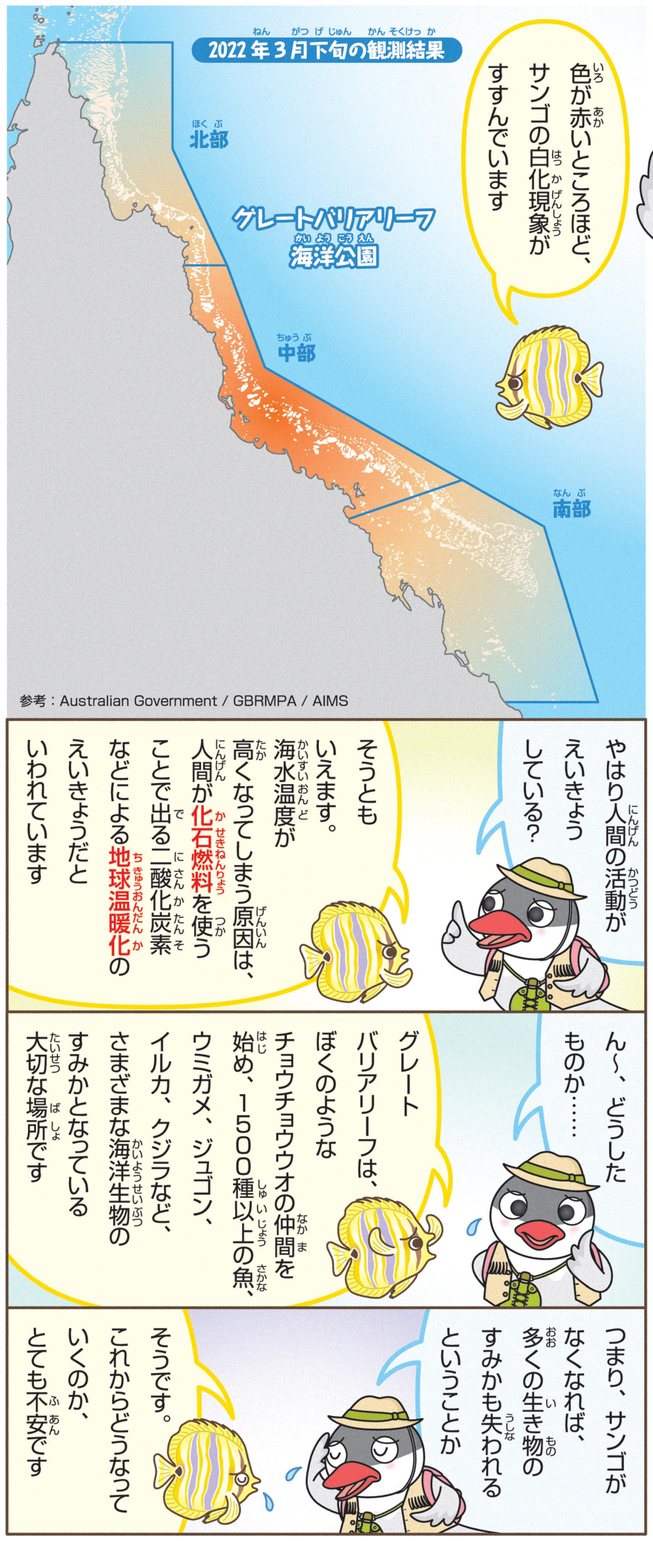
その1 からだの中に「かっ虫そう」という植物プランクトンをすまわせている。



その3 かっ虫そうが太陽の光を利用して(光合成)作り出す養分や、酸素をもらっている。

その2 海水温度18度～30度くらいの太陽の光が当たる(かっ虫そうが生きられる)場所にすんでいる。

その4 かっ虫そうが光合成をしない夜などは、流れてくる小さな生き物を、体の表面にあるしょく手でつかまえて食べている。



今月のキーワード

【世界遺産】
世界中の人が協力して守っていく価値があると認められ、厳しいしん査に合格し、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産リストに登録されているもの。文化遺産、自然遺産、複合遺産の3つがある。

【化石燃料】
動物や植物の死がいが長い時間をかけて地下で変化してできた燃料。石油や石炭、天然ガスなど。

【地球温暖化】
地球の気温が上がること。人間の活動にともない温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二ちっ素、フロンなど)が増えると、その結果、気温が上がる。海面水位が上昇したり、異常気象が起こりやすくなったり、生き物などに悪えいきょうが出たりすると考えられている。

こぼれ話 サンゴvsサンゴ

サンゴは、自分で移動できないため成長するサンゴ同士が密になります。かっ虫そうから栄養分をもらっているサンゴにとって、日当たりは生きるためにとても大きな問題で、夜な夜な場所取り合戦をくり広げています。いつも使うしょく手よりも長い「スウィーパーしょく手」で、となりのサンゴをさしたり、おおいかぶさるように成長して光をひとりじめしたりします。

キョクさんのニュースピックス

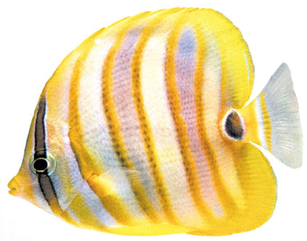
ラニーニャだったのに!?

サンゴにとって太陽の光と同じくえいきょうを受けやすいのが海水温度だ。グレートバリアリーフの広いはん囲でサンゴの白化現象が起こったのは、今から24年前が最初。その後も、海水温度が高くなるたびに白化現象が起こっているが、今年は「ラニーニャ現象」にもかかわらず白化してしまい、研究者も頭をかかえているそうだよ。

ラニーニャ現象は、南アメリカ大陸のペルー沖から太平洋の中央までの広い海域で、海面付近の海水温度がいつもより低くなる状態が半年以上続く現象だよ。東からふく風(貿易風)がいつもより強くなって、東側にある冷たい海水が西へ広がるんだ。オーストラリアでは雨が多く気温が低くなり、海水も冷やされると考えられている。

海のユニーク生きもの図鑑

【レインフォーズバタフライフィッシュ】



すみか グレートバリアリーフ周辺のサンゴしょう域
大きさ 12～15センチメートル
食べ物 サンゴ・小さなこうかく類
特ちょう オーストラリアにしかいない魚で、チョウチョウウオの仲間。からだにだいだい色のたてじまが6本ほどある。サンゴをつついて食べるが、グレートバリアリーフのサンゴが減っていることもあり、レインフォーズバタフライフィッシュ自体も減っているらしい。

SAPIX小学部からのお知らせ

エコのとびらBIO「ヒトと生き物の話」
好評販売中!!

人気シリーズ「エコのとびら」シニア版で掲載していたストーリーからセレクトした18話を収録。クイズやコネタなどのほか、キーワードの解説付き。

オールカラー
136ページ(A5判)
定価：1,100円(税込)
企画・編集：SAPIX環境教育センター
発行：代々木ライブラリー

「ecoのとびらシニア版」は毎月第4木曜日にけいさい予定です。